地域の魅力
ふる里再発見

蠣崎波響（かきざきはきょう）と門人たち
- 1 -

令和８年度梁川美術館企画展
「蠣崎波響と門人たち」
プレ展示…4月29日㊌㊗～5月24日㊐
第Ⅰ期…6月13日㊏～7月20日㊊㊗
第Ⅱ期…7月28日㊋～9月23日㊌㊗

伊達市梁川美術館では、令和８年度に５回の企画展を計画しています。この企画展の中から、江戸時代後半に活躍した松前藩の絵師・蠣崎波響と門人たちの作品を展示する「蠣崎波響と門人たち」の内容を６回に渡って紹介します。

松前藩は、文化４（１８０７）年に、蝦夷地（現在の北海道松前町周辺）を幕府に取り上げられました。理由はさまざまですが、幕府が蝦夷地を直接支配して、ロシアの南下に対する北方警備を強化する方針をとったことが理由として考えられています。

代わりに松前藩主松前章広（まつまえあきひろ）に与えられた領地は梁川に９千石と常陸国などを合わせた１万８千石でした。蝦夷交易の運上金により数万石の大名であった松前家にとっては非常に厳しい内容のものでした。

文化４（１８０７）年～文政４（１８２１）年の14年間、松前藩は梁川に移封となり、蠣崎波響は藩主の一族で家老職として多忙な日々を過ごしました。絵画や文学に親しみ、梁川では藩の財政を支えることも兼ねた作品制作を行っていました。門人には、保原の熊坂適山（くまさかてきざん）・蘭斎（らんさい）兄弟や霊山町大石の大橋波練（おおはしはれん）などがおり、市内には波響をはじめ門人たちの作品が数多く残されています。

この頃、「梁川八景図」（函館市指定文化財／函館市中央図書館蔵）など梁川の風景や人物を題材に多くの作品を描いており、近隣から門人も多く集まって来ました。

江戸時代後半に、養蚕の町として栄えた伊達市内には、蠣崎波響をはじめ門人たちの作品が数多く保管されています。市民の皆さんのお宅にも作品が眠っているかもしれません。

「祈願成就奉納」
作：蠣崎波響

伊達な
国際交流員・ALTの
つれづれコラム
vol.109

「忍耐は美徳」
Patience is a Virtue

英訳版を見る▶

岡山県に住んでいた頃、日本社会に受け入れられるため日本語の勉強を始めましたが、実際は見た目が外国人ということで簡単に受け入れられることは難しいと感じました。その気持ちは20年経った今も感じていることで、この先もずっと続いていくと感じています。

固定観念を打ち破り、より活気に満ち、多様性に富んだ包摂的な世界を創造するには、歴史的にも将来的にも、国籍を問わず私たち全員の努力が必要となります。

伊達市に来てから約２年が経ち、国際交流員としての活動を終えることとなりました。今は、新しい国際交流員にこの重要な役割を引き継げることにわくわくしています。また、しばらくの間はこの伊達市に留まる予定であることをうれしく思います。

今まで私と家族を支え続けてくれた全ての人々に感謝します。みなさんが私たちの世界を明るくしてくれました。市内でまたお会いしましょう！

（イボンヌ）

にじいろのだて（男女共同参画に関するさまざまな用語を紹介）

『ガラスの天井』… 女性の能力発揮を防げ、企業における上級管理職への昇進や、労使団体における意志決定の場への登用を阻害している見えない障壁のこと。